FIWA®マンスリー・セミナー講演より
アドバイザーとして知っておきたい脳の錯覚の怖さ

講演: 久留米大学商学部教授　塚崎　公義氏
レポーター:　赤堀　薫里

人間、意志決定を間違えるときがあります。どんな場合にどのように間違えるのかというパターンがある程度あるので、それを知っておくと少し間違える確率が減るということでご参考までにお話します。

まず、最初の数字に囚われないようにしようということも大事なことです。例えば、2000 万円の広いマンションか 1500 万円の狭いマンションにするか悩んだ末に契約をしたとします。その日のうちに家具を買いに行ってはいけません。もしその日のうちに家具を買いに行くと 10 万円の家具と 20 万円の家具。『たった 10 万円しか違わないのならいい方にするか』ということになってしまいます。その日は家具を買わずに家に帰る。翌日、安売りスーパーでセールになっているビールを買ってから家具を買いに行くと、10 万円と 20 万円。『それは安い方だろう 』ということになります。ということで、マンションを契約した日に家具を買うのは注意です。

合成の誤謬にも注意しましょう。合成の誤謬とは、みんなが正しいと思うことをすると、皆が酷い目にあう。みんなが正しいこと、合理的な行動をする。劇場火災の時に 1 人 1 人のお客にとって合理的な行動は、出口に向かって走ることです。でも、全員が出口に向かって走るととんでもないことが起こります。株価が暴落するかもしれないと聞いて、一人ひとりの投資家が行うべきことは売り注文を出すことです。全員が売り注文を出すと買い注文が出てこないので、商いが成立せず株価だけがどんどん下がっていく。株価が下がるというだけで、皆が損をする。誰も売れない。正しいことがベストとは限らない。

詐欺に気をつけよう、ごく一般的な話です。必ず儲かる話は必ず損する話です。なぜならそれは詐欺ですから。私の好きな言葉、『相手の立場で考える』を覚えておいてください。ビジネスの世界でしたら、ライバルが一番嫌がりそうなことは何かということを考えることが大事です。つまり、相手の立場に立って考えるということです。自分が必ず儲かる商品を持っていたとしたら、見知らぬ人に

Copyright　ⓒNPO 法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」
発行人:岡本和久、発行:NPO 法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」
URL: https://fiwa.or.jp/　　Email:　joho@fiwa.or.jp

売ってあげるかな？と考える。そう考えると、今、目の前にいるこの人は何者かな？ものすごくお人よしなのか、そうでなければ詐欺師だよな、ということに気が付きます。

小さな確率を大きく感じます。「確率 0.01%で失明する仕事、いくらなら引受けてくれる？」と聞かれると、「相当高いお金を払ってくれないとやらないよ。」と答える人は多いですよね。それでは、『あなたはすでに 50%の確率で失明する病気にかかっています。あなたにこの危険な仕事をお願いする時に、いくらだったらやってくれますか？』と聞かれたら、「どうせ 50%の確率で失明するんだろ？その確率が 50.01%に上がったとしても誤差の範囲じゃないか。安くてもやってやるよ」と、つい答えてしまいそうです。同じ 0.01%ですが、0 と 0.01%はすごく違うように感じて、50 と 50.01 は誤差の範囲だと感じてしまうというのが人間だということのようです。

逆もあります。これは確率の大きさではなくて、人間は儲かるとちょっと嬉しいけれど、損をするとすごく悔しいという話です。『0.01%の確率で失明する仕事は絶対受けたくない、たくさんお金をくれるのであればいいけれど』と、思うのと逆に、『あなたは失明する確率 0.01%の病気にかかっています。その病気を治してあげる薬を持っていますけどいくらで買いますか？』と言われたら、『そんな薬に高い金を払えるか』という人が結構多いのではないでしょうか。

起きる確率が 0～0.01%ぐらいの時はすごく大きく感じる。飛行機が落ちる確率がそうですね。宝くじに当たる確率もそうですね。本当はものすごく小さいのに、結構大きく感じて、飛行機を怖がったり、宝くじを買ってしまうことのようです。

損をする悲しみは儲ける喜びよりも大きいです。投資初心者は、利食いが早くて損切が遅いというのは、これだと言われています。人間は儲かる時の嬉しさよりも、損するときの悲しみの方が 2 倍になります。例えば株が 100 円下がった時。これをこのまま持っていると、戻るかもしれないけれど、損が 2 倍になるかもしれない。でも損が 2 倍になったからといって、そんなに悲しくはない。損が 0 になってくれたらすごく悲しさが減ります。だったら戻る方にかけてみよう。ということで損切りをしないでそのまま持っている。100 円儲かっている時に、このまま持っていたら儲けが 200 円に増えるかもしれない。でも 100 円が 200 円に増えたからといって、そんなに嬉しいわけではない。でも、儲けが無くなってしまったら、この喜びが吹っ飛んでしまう。だったら早めに売ろうということで、利食いが早くなってしまう。

講演ではこの他にもさまざまな事例を使い、陥りがちな脳の錯覚の怖さをわかりやすく解説くださいました。私も気を付けたいと思います。

Copyrightⓒ特定非営利活動法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」, 2020, All rights reserved